ぎやん法談　上

特
子 多 13
1558

多
1558

八代目ハ八月六日晩より出宅の都[illegible]上[illegible]
[illegible]ハ[illegible]一ツ[illegible]右ハ名古屋[illegible]甚だ大[illegible]
[illegible]大入[illegible]團十郎[illegible]
[illegible]
[illegible]原[illegible]
[illegible]成田屋[illegible]
[illegible]市川[illegible]
[illegible]親[illegible]雅[illegible]
[illegible]大[illegible]
[illegible]雛[illegible]
[illegible]中[illegible]一[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
世[illegible]
[illegible]
[illegible]一
[illegible]
[illegible]大[illegible]
[illegible]進上[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

直[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 八代目[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一 今日[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月七日

[illegible]

[illegible]

嘉永七甲寅年 八月
八代目團十郎ニて

元祖團十郎七年相傳 勧進帳

一曲

杵屋六三郎
西川扇蔵

旅の衣ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]知るも[illegible]大坂[illegible]

歌舞妓十八番

勧進帳

八代目 市川團十郎御名残

行年三十二歳 法名浄莚信士

乍恐以口上書奉申上候

一 御町中様ニ申上候私儀[illegible]此度[illegible]死出の旅路へ[illegible]

[illegible]八百八町の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の小袖[illegible]

出[illegible]先立ぬ役者[illegible]涙[illegible]

[illegible]親[illegible]

[illegible]役者市川團十郎[illegible]江戸[illegible]

出立[illegible]

[illegible]勧進帳の[illegible]

[illegible]成仏[illegible]

[illegible]若日より[illegible]

[illegible]

八代目

市川團十郎

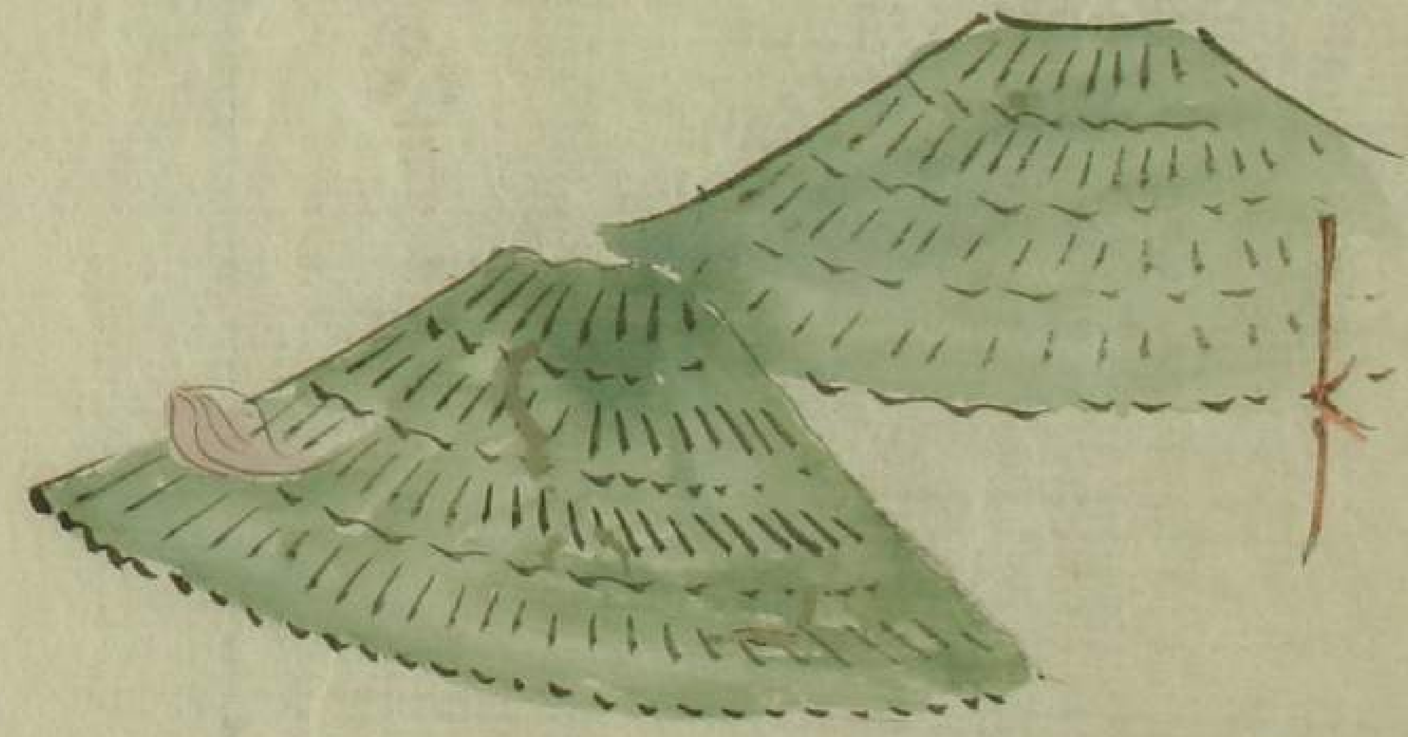
浪花稲妻
名古屋濡燕
両人連善蓮花図

寳酒原嵪住

六字續

夫おもんみるに生ハことさら浮世の雲をもく
人間の浮生なる相をつらつら観ずるに
おほよそはかなきものハこの世の始中終
まぼろしの如くなる一期なりされバ未だ万歳
の人身をうけたりといふ事をきかず
一生すぎやすしいまにいたりてたれか
百年の形体をたもつべきや
我や先人や先きやうともしらず
あすともしらずおくれさきだつ
人ハもとのしづくすゑの露よりも
しげしといへりされバ朝にハ紅顔ありて夕にハ
白骨となれる身なりすでに無常の風きたりぬれバ則
ふたつのまなこたちまちにとぢひとつのいきながくたえぬれバ
紅顔むなしく変じて桃李のよそほひをうしなひぬるときハ
六親眷属集りてなげきかなしめども更にその甲斐あるべからず
さてしもあるべき事ならねバとて野外におくりて夜半の煙となし
はてぬれバただ白骨のみぞのこれり哀といふも中々おろかなり
されバ人間のはかなき事ハ老少不定のさかひなれバたれの
人もはやく後生の一大事を心にかけて阿弥陀仏をふかくたのみ
まゐらせて念仏まうすべき者なりあなかしこあなかしこ

花吹雪



辞世

月清ふ二浪幸け
独り旅の空
御月三升
是申ちちちさ子世乃
後のさきりうれ
承円子なく

かけ合

回 不破伴左衛門
◯ 名古屋山三

回 山家ふうん者は古着屋に[illegible]
二本の刀[illegible]の者がまへの[illegible]の東門と
それ[illegible]にて[illegible]◯[illegible]の[illegible]の
[illegible]遠国[illegible]名古屋[illegible]
神も[illegible]の[illegible]
回 [illegible]大坂の[illegible]見ず[illegible]の[illegible]も
[illegible]◯[illegible]
[illegible]回[illegible]牡丹[illegible]◯[illegible]

死出の山ぶみ 回西小難波津 ○北の名古屋 回おさんこ [illegible]
廓白小袖

長寿老人 鳴子撰述

八代目あられあわせて [illegible]
[illegible] 江戸の [illegible]
[illegible]
[illegible] 有 [illegible]
[illegible] の [illegible]
[illegible] の [illegible]
[illegible]
[illegible]
八代の家の [illegible]
[illegible]

園木操
万代園
蔦樹園
寿男玉人
長寿老人

守治ハ茶所

武ハ市川がめぐゝの中ニハ八代目ハ江戸の氣ニあふ親ニ
あふ孝も義もそ好まるゝしまれとうおもふ起こりけん
エチヤしおかもハいやじやいか

夕ふま

おしき絵ニおが見二年の仲ハ月のうちの男氣ニおふて
乞がん申ぞくあれらうち大江戸の役者ニかふらず惣れぬんか

生ハ乳あづんぐ

若女形住所ハ沢村のこむ三年が花菊のかれおき記念
かちりの梅牡丹江戸をおりかへ贔屓ら乞がなしくかしく
好しハあふれしるとおさらみたるりを呼ぶまゝ

うたじ玉

鶏らふくかけまと云ふのかゝつ自害せしまでも贔屓の

今ハおまへあけらえむまふうてござんじやあれんなんか

ままさあ

福がまゝと好ふた役者のいかの若もそ好くさえて枯かれん花の
ふくまとひぐらしや世をさるゝしひとすぢに芝居さらやめ
都ろ羅役などりよ好しの愛客ハでちに贔屓ともハせサ
大ぶそものじや妝れんササアサあれぬもよんれれか

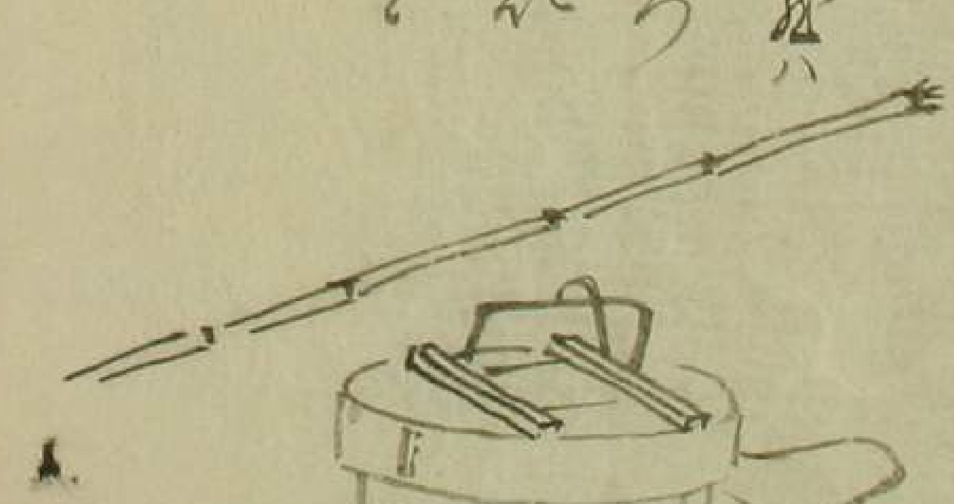
悪役ハ尾ぶ

好しハ浪あく贔屓しいふあまで八代目ハ吉見といふ足贔屓
いふらみとしいふいつの絵に出るゝおかつてし

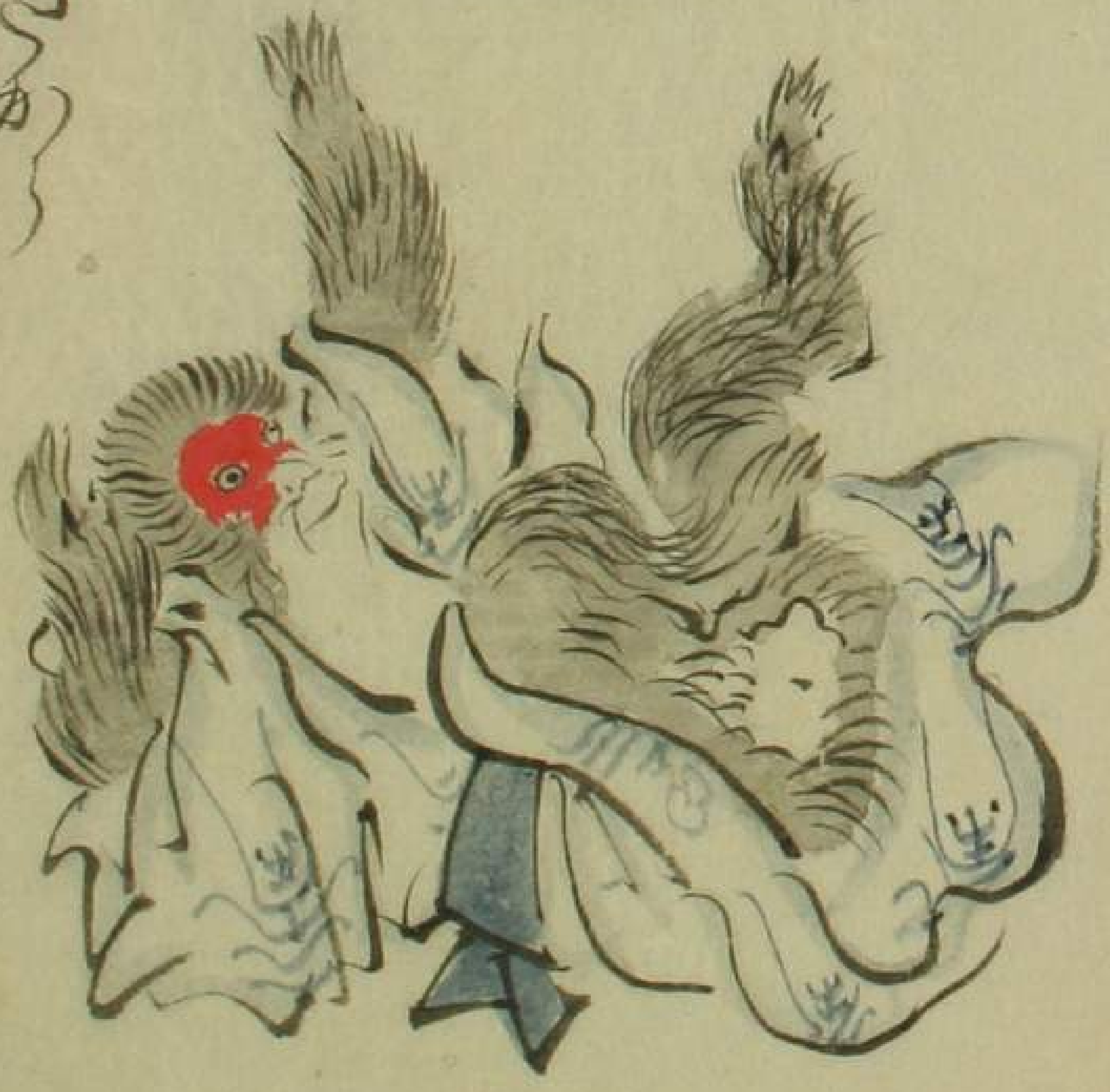
浪よしがおもうこ

浪のままに雑役の美しい西あはさるの顔の立むのうたままされぬ花
気風にちる牡丹をちさまへしうちも加あはれにあれはらがおもう
あぶしかみがね

あしたに似顔の[illegible]
かゝるの[illegible]
神[illegible]
川ばた
[illegible]
[illegible]袖[illegible]二人さかゐやへナア
大坂の中の[illegible]
大坂[illegible]
常にしく親仁の[illegible]海老蔵ハ
狂言し[illegible]
[illegible]和[illegible]親の[illegible]
親仁[illegible]書画[illegible]
[illegible]恩愛[illegible]
右十章 [illegible]



うくごい
きめて
いる
さる


きか〜
をちる
さる

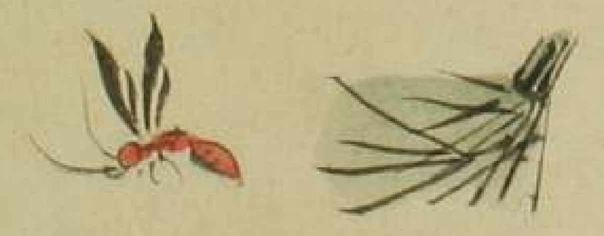
ときは
あとい
ぞよ〜しな
さる

どうで吾猿
道中あんま志〜すふいなさん
たまご〜
して
いる
さる

一人ご

〽おまへとこへいうしとしハあそびのやうなもの
これハいよくはしくまう
肉のなかをそろふんしてさるまわしおそじめた宿がどうらふきそろう宿で
ふんの木へ蜂がきおって　かれそうニ蛇まつがとれるうら
おことハれとっく大金ととけをしふとふつてもやこと蜂を
ていれさしすぎっくそうろいちうところして　あやうく湯よ
本ろふおちてさるかざとふゑこもあ見たようあなとのぶ
これハぶんさうらいよくぶんだまして　ゐせうせまし申う
あかしいくつられとれしても
あんまりおゐ中もあるまい

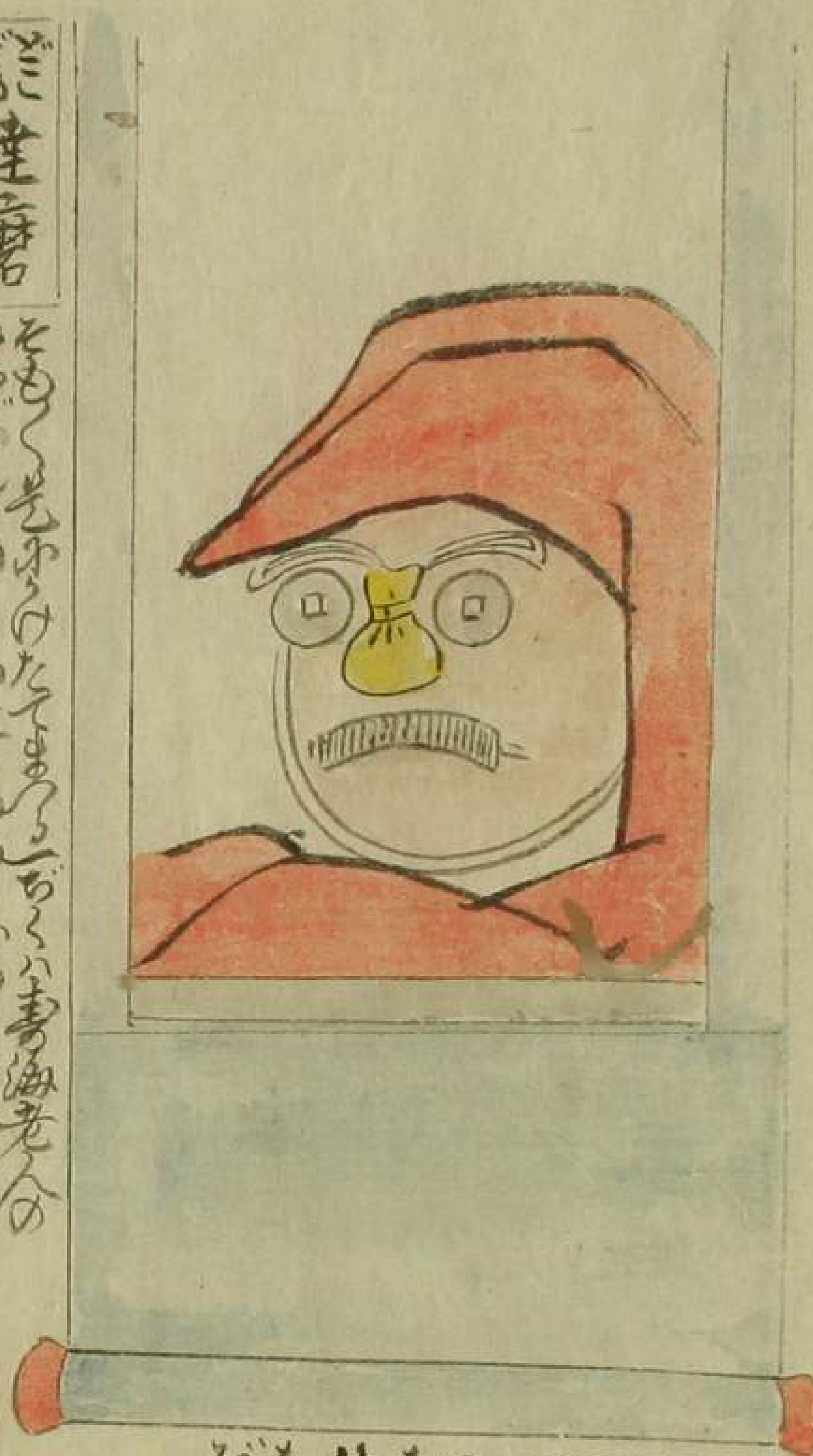
〽あゝ蜂がしんだ
金のつるを
まかてしまうて
あゝや
くやしや



成田三非道女房開帳

并ニ淫物例放蕩
尚八月六日より日数欲重ねのあひだ
欲深川七代寺において令開扉もの也

別当 身上寺
役者



どこどの達磨

そもそも先ふらけたてまつる一ぢくハ書海老人の御あづかしそのさしおこしそのもハふのりあるところ
あやうき大あんとくそう九年のめんぺきのあひだ九代のそうぞくふまわれさんしのつめ小笠かん
さまふ両のせつそうあり ちやうよわらく繁昌ごさんあらしませう

鰕蟇の香炉

せんぞぶらあんより児雷也へらはつぎつら水をはらふとも心やさきふあかりはらおりておれへて名実の
法をおかもとつくぞのうあんさいありさわきとされハ身をされうがそうのとあり一両あり
「よありへらしくとしかくあれしくありし

於房大姉如来

みづしあのうちふあんちしなうおかんぞうふあづけあくもこうさらへ上人あるちぜんのとふごさうの二ぶぎう
うめどの赤らふ小蒲つぶけんしまかあかれとけありそのちあきんげんぶら
のけあそをあんちうちを百あり百ちう
あるこをとおきさおせのえらんあるまじバ
あが赤んげ後悔あらゆましませう
山ろあるう
あぶもとぶん八中も申ぶん猿ちゃあるの
ころ子のさめて赤りみのさう

書置 一通

さの文めんのうちへハべらあんざさふくらしくのせうバてもぶらあの
らへあさぶそくことはあきんやはけん
あしまします

南無三外大孝心

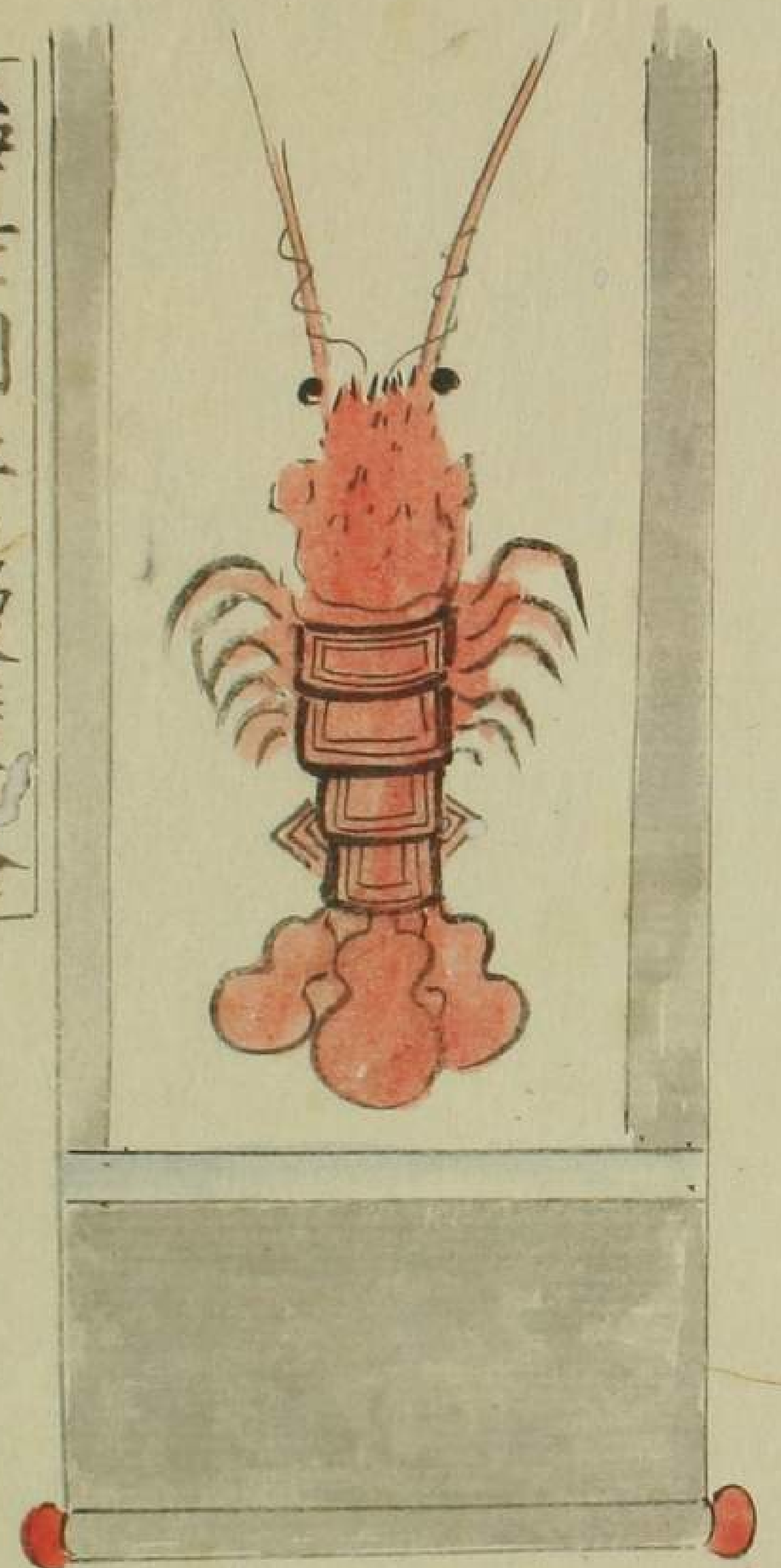
そもそも……孝行……一世一代の……諸人……女のあいけう……

一 女中愛敬の御守
一 出世鯉の御守
一 開運福牡丹の御守
一 安産三筋の御腹帯
一 子育こまりの守
一 智ころぶの守
一 縁むすびの御守

いづれも御あつまり……

嫡子小利口如来

おのちや……眼玉……女の……



海老同血の慢陀洛

儒学大学のごしん……南海大鵬せんじんへ……海老の……相安の……眼……福を……尾は……海老と思ふ念を……

あります……

爰八世有孝猿子能諸人被愛暴戻強而
亦孝心深衰下孽謀耽欲心孝猿盍拯之
然捨孝猿嗚呼珍事老女婦娘共深悲哀
其求事錦繪莫大也

東廼昰夏題

失殺尋再不戻嗚呼
欲心充満哉此座頭
後悔不立先如譬既
欲猿過猿亦有生敢
不随心是所謂女猿
智恵可云而已

浪花埜見物狂題

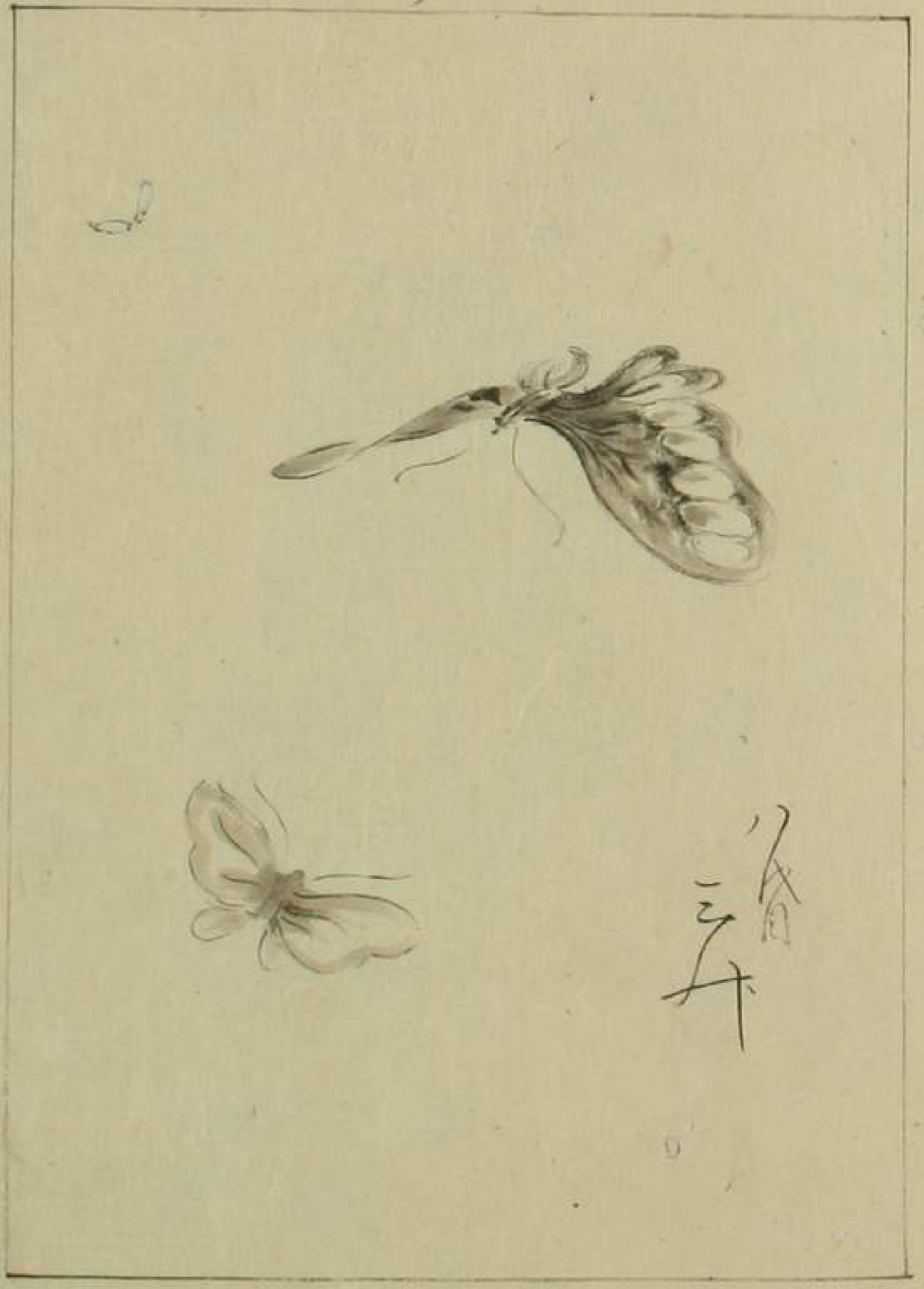
御覧願
葉月六日
猿白院成清日田居士
心
古今めづらしき親孝行の誉は
江戸の花も身の実なる孝木の実は八
仮名書の若殘
三
笑
猿廻市川名若
切
雄浪出りの役がわりと浮まくら
人の去似せる　豪傑譚詰
惜まれ成ぬと大江戸の評判
横
雲

ゆめのそらたびねのまくら
夢空旅寐枕
八代續

役人替名

父寿海老人　市川海老蔵
妾の子 九代目　市川高麗蔵
妾さめの子　市川ゑん蔵
本妻の實子八代目 養子 若夫　市川猿蔵
河原崎権十郎
十郎　堀越重之丞

いつし年成田屋に参
莱蝶と云ふの一冠に主来
せし時吉の人の賛とて
八重仮ふいとも色香ぞ勝り
つ華の久しき花大江戸の花
と志てし [illegible] 大全手の昔と
かわぬ [illegible] 浪花 [illegible]
みしる花業の加り [illegible]
世の変りのさ [illegible] 思へば三升のらし [illegible] 画ハたをきさくの中絵ハ
[illegible] 花道老人 [illegible]
[illegible]
あゝ [illegible] 静女 [illegible] 僊



敵のかたみ人乗り込んで隙
八代龍之助以兎角思ひ始
助言ニ趣き駆て而申候哉

この若菜
花車扱し
根もこの形

あたらしく
ほころびそめし
見迎ふ杉
おくりの日ぞ残の思
木場の桜の居
香以山人

八目 岡眼

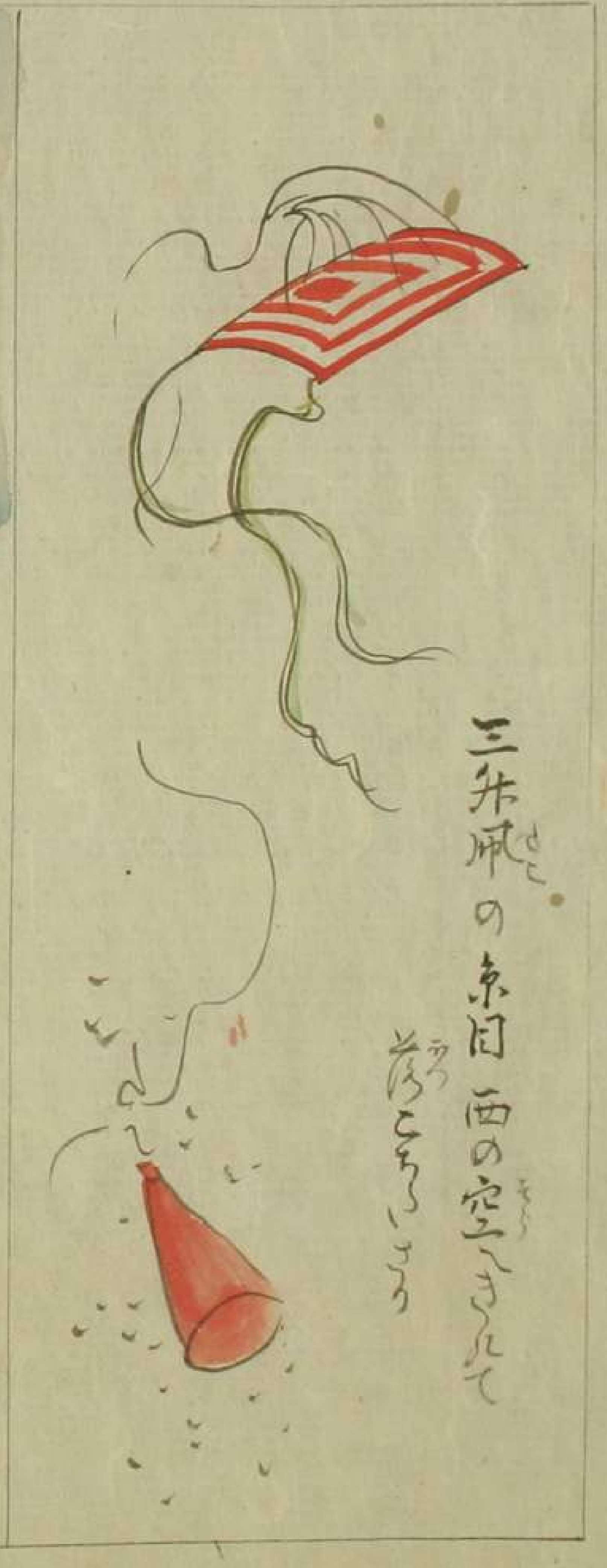
市川八猿圖會

手の长いさるつなかつて
月をとらうとしても
水まるつてとれぬ
瓢瓠の空の月

八ぶ竜王の剱を見て
生肝をぬかれさる

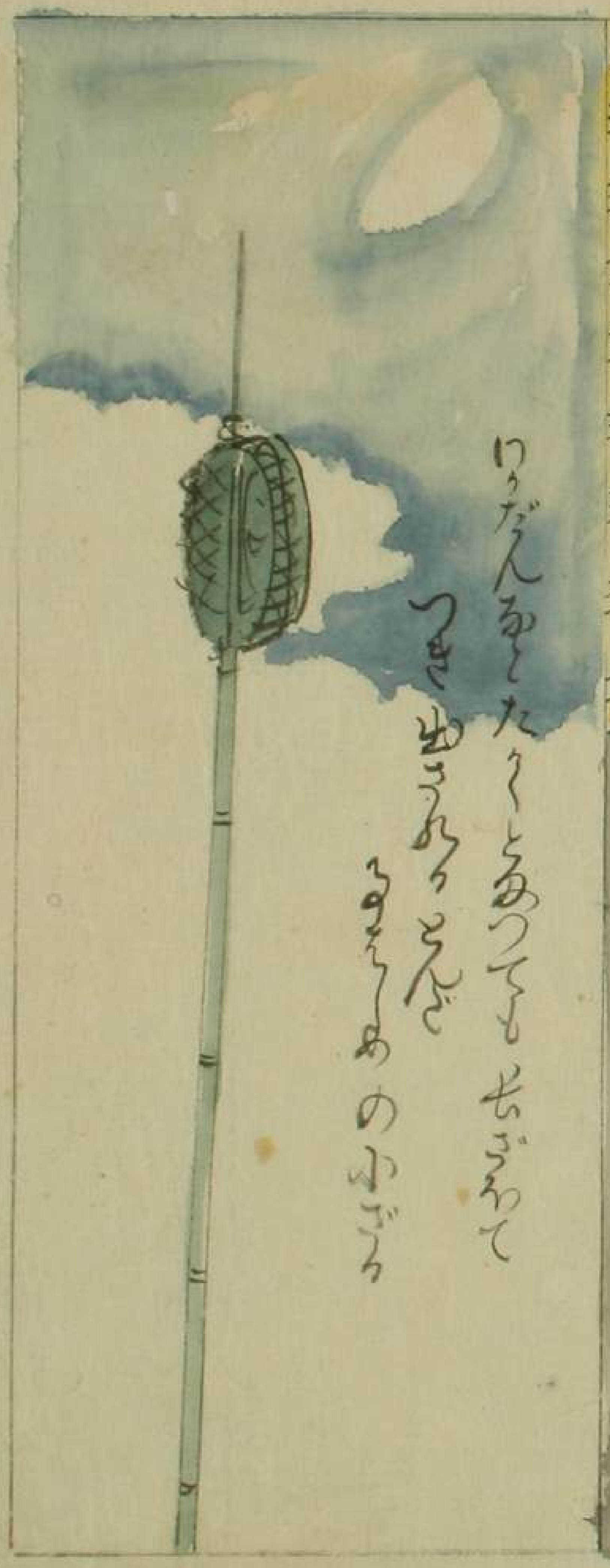
毛をふいて病を
なをし金主の
撥居堂

団栗をひろふて
ねる猿


三升凧の糸目 西の空へきれて
落ちていきり

ひッかき出して毛が田はひきこざる瀧の水が
ふくるつくろふところの工合がちがふ

大坂の藤兵衛の
あらひひッそりと
しずか
戸かりの
さる


ゆだんならぬとあつても出ぶされて
つき出されるとぞ
なそらあの小ざる

ちうしんかし

とチ工のめんだんのこぶけ
あ娘ざるのいきうれもぞ
とらえるあるやく

わるやへござ
たまけられ
きゝそれ
○○○

あびあるとひめ下
ひめの娘あるざるを
あさひめのくまりて
のません下あるざるを
たぞろくうやまゝざ
まぐくまりいせう

ごふぞあねびさるよ
おの事をおゐせて
あゝらゝちへおげて
でもえらまうをて
届られあんも
あさまよ
あるざふろ
うらやく

まぁ白ざるは久々
ぶりであいまゝる
あゝや
心のうちで
今のうき
ぎぬの
事を
いうて
ある

ためのこゝろをゆせて事
まぁ
くびをさ

いふあがいゝあれ
ゆもあるなみ
さる
つゝられて
ある

やまくるびのくんさあ
久しぬりまるく自身
かりうましてまづわん
うるうもあくて識あられくう
ござる手られしや

白ざる為のませあるものつ
あうゝぞくへ来る

むかしむかし
さるかにかつせん

むかし〳〵ある所に [illegible] 大ざる ありて [illegible] 木へ [illegible] の▲

▲ [illegible] 猿の [illegible] 柿の [illegible] そのうへ [illegible] 大きに [illegible] 甲ら [illegible] 団子 [illegible]

扨きって [illegible] 柿の木 [illegible] 猿 [illegible] 蟹 [illegible] 日 [illegible] 団子の [illegible] 大 [illegible] 馬まで [illegible] 焼 [illegible] もさる [illegible] 杵 [illegible] さてまで [illegible] 猿の [illegible]

修羅の陰火を燃し愁傷の涙のうちに金が有しれ[illegible]
鳴聲[illegible]

夫婦合躰
欲の獣
一名おためごかし

此欲獣ハ原ニ市川の流より成田山より起り壽海にまさりて
のち浪花の里に富を起して先年おのれ孝功を祝する事とい
いよいよ妾子の愛にあがされ強欲に関する眼ハ人並とちがひ
好事の贅沢ハ人の持物を嘲り計てあくへし達吟の狂言に
不實の薄情とおのれしらく黄金を起さかりあかるる夫婦腹
合に縛る財布にそ出の面きもせあらし實子の孫とうること

角つの つのハとが重て二本あるといへども尼のつの見くゝ咎あり これを欲の方角（つの）と欲する也

面つら 欲づらの皮ぞ鉄面皮といふ涙面ハ八ッ剌いりて らすが よふ 面がさまで らすふ

目 おやの欲目が すぐれる欲目おる目 かゝる時ハおさ目は おかぬ七代目ら死目を みる目さらつ目ハ京 目ハ世の百年目ぐ目多 よくやといふ事でもきの 事目かハ是非も あ目いぶの

京都ぢハ仕様があれ 大坂ぢハ道頓堀中島也 ぢハ欲の上盛の 山師ぐろ強欲 ぢく小路み まゝして ゆらんは八本 どうぞ[illegible]志や ちん端の非道の縁日 あぐ[illegible]八大入おれ般若面 いまゝ来小人心欲の けぶとのかんかんは やら都いいらしてどらう しろ非道せんハ おめでたう

容と嵐国屋が三十二歳を一期の面目をおとしきめし八代目の
ゆかりある藤蔵だいぢしらずも 尾を 九つの尻ほそく今九代
目におよぶまでもたゆめざる親あり尾は尊き深き慈悲あり
手て 手は晋子が書風を学び老年まで光悦が文字を書く
家のあることあり 足あし あしは新国を唐見して当地に住むをまつ
藤代まずることを書き出し如く奇の働きつつも今浪花の足と云う
爪つめ つめは信ずる所の法をあらわして三角の法を修しきりと
かくしてさらに形をかくあり常に爪にあることのたしかなり
心こころ 忠とは大数心といふ者のまよりに己をせめ南無は先字の尽
なくてもいまだこそよくもしんあり
尿 いつの先世よりあまりにそ今念ぞ
をもらせんにその親心の尊しあり

雑名と云がこの忠を見てそろ忠心に新とす　八代目

三段目の文句 見合せて 気の毒ものがたりと

初日見物の
お客さん

さもあらば思ひ知らすつもり
親子の縁も夫婦の縁も切て一世の見納め
因果と金が合ふ思へば是までの事
本蔵が一生のあやまり
おもてむきは石田
いかなる物の吟味をかけ問のうへならば
此程の事を知らぬは
めでたきまつりの名をとり
世の中より聞て心ならず
よもや思へども
夜半にもなんぞさんの神
来る人の世話やきかねん

附込座の者
若い衆
入金
遠くみつつく
若い衆
大阪の
初日
上坂
初日
お客ごろしは
上方へかへり
江戸の
名代の名跡
江戸の
八代目

あら夜着筆か形見として　兒雷女の着り

なんぼりあき来て洞へ出家とれめり　親教

人並まて置てもおき子と　三升

追善借金といふとおもきな　門前いきん中

錦を見変對面に　若き庵ぞく親子

わしがる廓ハ西へしある　花湊

石と名残が済り今宵べハ　覚悟をきめる

小生んの祖代々と日ましても代々　圓光

きの小ふ小んで手の如くちがひ　さげのうりあるいで八代目の侍

三十日前野なりまるに　おし代をいふまうも

おいつも女ハ母者ぢやく　寅母

呼とやまきざれか世話うわるると　待まものや　みん袖

血の海ら切先を我身の若神んの洞をえくく　門本中

親に知らぬ双方縁めが　さる景

判官さいかうる気が付ず　本千乙系

あの世あの世で八わきんせぬ　若あまめ　嬢達

死る分でお前より私が先へ死なすハあへね　振袖あまの　女中

血の中里ぞくのかしらふかめ　けちらうすもりに　和の芸者

切得わハかやうぶますじと　藤の評判

日本一のあわしの盤　若き衆よりおらし参考

猶ちりまれぬ弘法んの品　物屋七右衛門

母衣も一家ハのならんし留守の骨ともええる　鼠みあ何とハヤイ　海老茶

きん大津ゑぶし
出ぬきの人の山聞ば来の八代
目の三芝
宵見へと竹田からくりのんびく

旅町知 女中悲 夜尊験	八前歎 後代咄 七無眠
借貸痛 家至驚 金困杲	鑾團塞 猿藏悦 麗悲弱

武蔵野のつゆにひらきし牡丹
浪まくのつゆにうきふね
ちこうゆきし

よみうり「竹に虎出ゐ婦多屋「よしあしとらの付
「紫の由縁助六屋「松本親子と水うやげ小「えびく
と「大入ちんどう来りしや「ちぶへくをんかね「桜木
綿ちぶ「ころりとひ

大津絵かへうた

おしゃく八代目「山さきあまし有りき羽子板すぎんの
「おのれ御ハ「春やどうぞもうて「桜木綿ちぶぐさ女
来る「大入大ちん来り「助高屋小納屋へ「一冊ゝ
男と女どもくみ「狂言本ゝ二代目は吉と萬来ゐ
「幸四郎「一丁舟あまさの世見物「ちぶへくの女ん
まさんもおかえ〇ともまうけて「さらりとひ

嘉永七甲寅年八月六日
猿白院成清日田信士
行年 三十二才

志ら萩や
露の玉ちる
別れ
大坂
加賀徳

俳優八代目市川團十郎
於浪華寓之内客舎死
嘉永七甲寅年八月六日
天王寺村一心寺葬行年
三十二歳法名浄莚信士

千草之露

一勇齋國芳画

秋風や文ながらに水浅黄　琴芳

百牡丹玉ちらすなりぬる花　以文

葉牡丹に来てもとまらぬ秋の蝶　和之

露しるき桃の葉花の眠りかな　北楊

八代や寮根にたしかき秋の空　福林

今朝からは牡丹も西にみなれけり　輸遠

世の秋やふりつかう風の音　竹孫

聴き人の声も如くに雁の声　酒香女

きの字かくらん声も秋の声　雪堂

来てかく口声あかすなり初しもの露　子葉

晩色も見ぬあまりなり露の玉　岩久

このしめりかなは芙蓉の花の露　早水

わ物ゆかしとかくゆかしき花かな　居年

草の露は袖のうらから月をかり　春扇

萩をなでたる露ハ明の月　紀高

淋しさは鏡ならぬや秋の鏡　森保

恐しく袖ぬらしけり菊の露　離女

出月の福の世やたちまちの雁　国仙

牡丹さへ眠もはなさぬ深夜かな　巣鶴

野分哉ゆるさぬ月の人の影　金星

追くの便りも知らし雁の声　萬紀

稲妻や猫のおれし雁の声　登羅

栽ぬれや牡丹の枝に秋の露　古淋

おもはゆも花の露の影　九合

秋の田を出ぬきんは中しは盛りぬ　千船

御空の松も秋さし中の秋　東成

錦織るあしきりなり秋の風　以之

折釘に袴かけたる秋の暮　小枝

草の香も手折らぬ花に光る露　西光

園窓や竹に[illegible]秋の風　花従

峰さへも袷の袂や秋の暮　加往

庭つ鳥力ぬけたる秋の空　金武

紅葉に光る露や一行寺　清樹

若月も消えてなりぬ夜の雨　梅丛

[illegible]の[illegible]花にまた袖[illegible]七草の露　莫群

[illegible]浮世の[illegible]名月の[illegible]　船唄

梅寿

峰を越へて淋しき[illegible]雁の声[illegible]　寿永

[illegible]萩の[illegible]雁の[illegible]　味彩

月[illegible]の[illegible]のまゝ　秋の舎

[illegible]文[illegible]の[illegible]　四季の屋

[illegible]

篤譽淨蓮實忍信士追悼

夜雨沾襟

一勇齋國芳画

牡丹ちりて　わかるゝ庭は　拵ゆけ　　[illegible]　小蝶

夜の露さびし　庭より　聞く之　　拾玉園　多代子

起きさゝて　きれし　東西の明る　　鶴久園　福林

根からして　赤さり　牡丹の名残かな　　桂静舎　秋橋

ちりてこそ　花の之知る也　世の花　　桂の舎　多寿児

[illegible]

牡丹花の　さかりは菱の　秋の蝶　　梅の戸　錐子

活られて　水あきらか　草花のもん　　室女　写々子

秋の夜　遊しただし　西の月　　楓園　玄息

今宵　きつい　姫ゆり　一面無活携　かくもなてしら　　四季の屋　三寿子

後追さて　拙るもきびし　秋の風　　篁亭　仙果

銀出の色殺つりと　てらふあか　ちり申く　花の[illegible]　　海川舎　自之

市川團十郎事
市川白猿

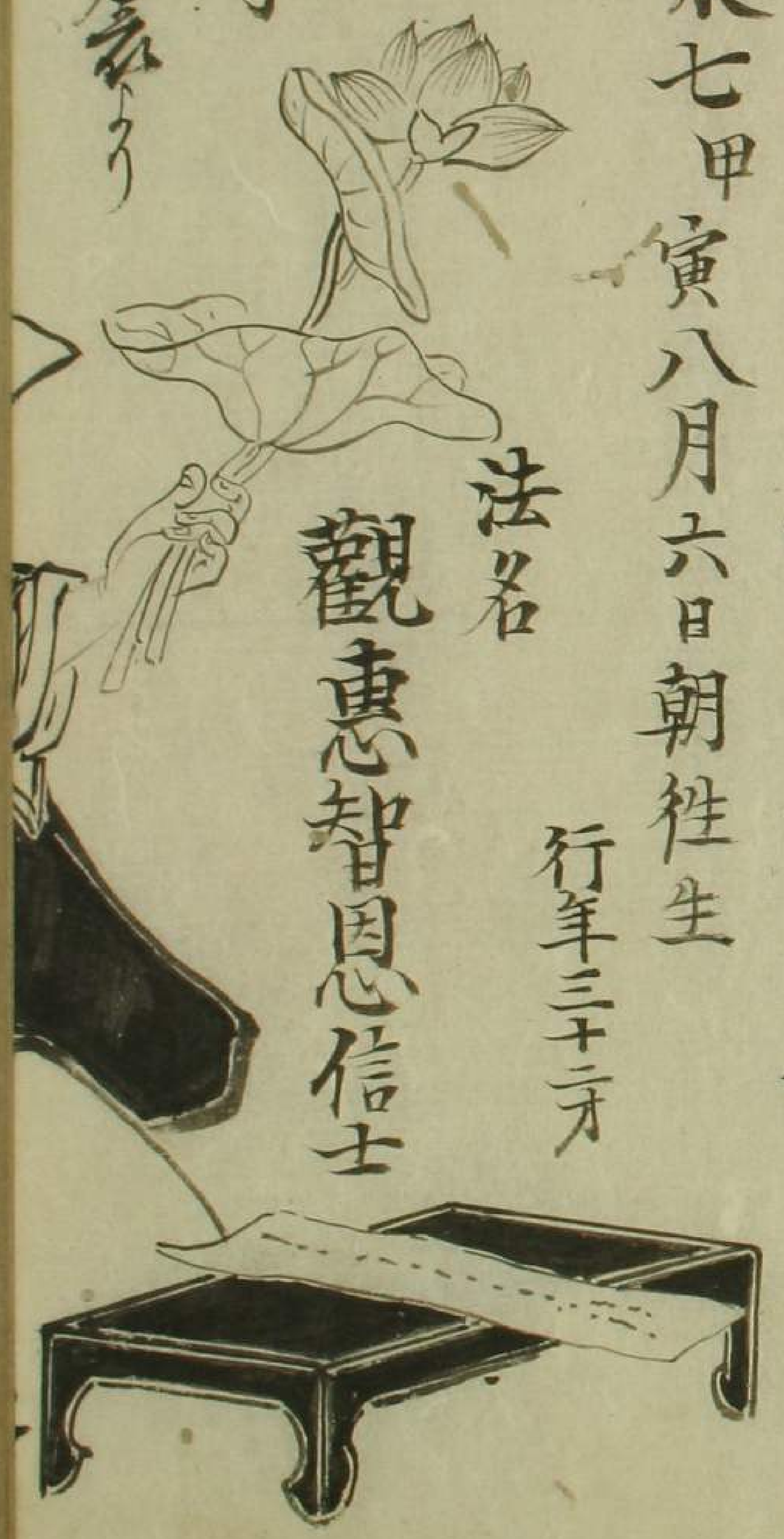
嘉永七甲寅八月六日朝徃生

行年三十二才

法名
觀恵智恩信士

墓所
天王寺村
一心寺

於大坂江戸表より



在坂中ハ御贔屓様方
御進メにより此度ハ初
猶又御目見えに
致候
当六月中芝居より
初日出来候て
名残狂言御覧
市川親子ハ
相勤
善悪ともに
風情
あ

辞世　○萩や露の玉ちる[illegible]あらし

南無阿弥陀仏

嘉永七寅とし八月六日八代目団十郎事
六月初旬尾張名古屋にて[illegible]切[illegible]
相勤大入大当り七月中旬[illegible]
大坂[illegible]七月廿八日大坂に参り[illegible]
中[illegible]自害[illegible]大評判
昌[illegible]狂言[illegible]評判
[illegible]鳳瑞[illegible]
川[illegible]
[illegible]入[illegible]八代目団十郎
中の[illegible]元[illegible]
[illegible]役者[illegible]
[illegible]

嘉永七年市川の下り難波表にて役者共并て
金子も過分に借受其上八百屋の大家の所にて
抱る所の縁にて八月六日の夜金子を何某の二階において
辞世をよみ三拾歳にて東都をしたひて切腹して果る
うまき者なれ共腫物と云にて中風の如く気の病ひ
其外家業の後に八月七日の夜海老蔵初め門弟中
大坂天王寺村一心寺にて葬式を八代目
親族心ざし者共一しほ哀れに思ひ日々に墓詣人
群集致し老若男女諸人線香を掛けまいらせとして
前代未聞と云ふ噂ありし東都の弟子共由しんれとも
留守方へ申のこし

現世
後世 八代目道中記
嘉永七寅年六月廿九日夜木場宅出立致し大坂へ
八ヶ月計也

市川團十郎
召仕 宗吉
道頓堀ニて上下 万吉
嵐璃寛 ニ三人
芝居 三人

六月海老蔵
七月朔日 三蔵
八月二日 三蔵

戸塚宿 中村屋泊
小田原宿 大清水泊
三島宿 三島屋泊

七月二日夜　江ノ上ニ宿　大竹屋泊
同月四日夜　若狭宿　江戸屋泊
同月五日夜　袋井宿　男重屋泊
同月六日夜　二川宿　米屋泊
同月七日夜　星崎宿　山本屋泊
右山本屋ニ而宿ハ　皆々達中ニ而　右宿ハ桑名村中和ニ而
国中御宿へ着ル兵父海老名右衛門ニ而立仕　海老村ニ而
山家方ニ而中着之芸者致居候ニ而参り東九郎
此方在宿右外ニ者右衛門ニ而海老名西殿
名国御宿へ罷越ニ而若者ニ而若屋座中若者
東十之丞ニ而宮吉ニ而安藤庄殿国御へ参り
八代同人　岐合支度海老村へ渡し
同月八日

三河山家宗方ニ而親類帰坂
同月九日
三河山中ニ而若屋ニ而新屋所国田屋吉右衛門方ニ而出立
同月廿九日
一、初日興行
至七月廿二日
一、春納
大吉ニ而宿柳屋ニ而中宿へ参り　宮吉之丞
万吉秀郷四人ニ而泊
同月廿四日
高見ニ而　大塚村ニ而　東若宿松屋へ四郎兵衛
同月廿五日夜　亀山ニ宿　萬屋泊
同月廿六日夜　石部宿　米屋伝右衛門泊

覚　八木屋傳右衛門

同月廿七日夜
同廿八日早朝
三十石の船ニ乗り　橋本ニ而上り石清水ニ湯治参詣
同所ゟ　橋の宮ニ而休ミ　八幡ニ参り大坂ゟ迎ひ船ニ参り
居所迄　大坂行始終中の芝居ゟのりこみニ相成
廿九日の夜ゟ大坂湯ニ而　山崎町杉本屋久左衛門方ニ止宿
八月朔日
海老屋へ中参りいたし　道頓堀大與ニ中料理茶屋へ連中
藤子大勢参り居出方参るべく　ゟ中ニ而右方へ参り中ノ
どうし久左衛門方ゟ国十郎ニ参りあいさつニ参り
同月二日
芝居見物いたし　又其中茶屋へ元ゟ参り同人参り
同月三日

稽古
同月四日
中の芝居ニ初日のよしニ而中参り出候　八代目團十郎の勢
なるべし　三番叟いたし　其参り　立役いたし
又日の朝
役者中　
芝居参り　久左衛門方へ
数屋の同
上方ニ惟子　白麻下帯絆
浅黄ちりめんの帯　丹後ニ　の袴
〆
脇ざし

銘　津田

六日
團十郎声ゝ野暮九中の芸振民代安なゝ中なる二階へ新しす
より自殺して御詠まつ事有の大乱あさとゝぬる　ふき夜
四ツ時より御法ゝ至り　百千山あ海

七日
百斤余の義俄没すり并ニあいゝ　ひ安娯ひね　十三ヶ村破松山
一　心ちよく御骨殺ゝなり
團十郎自殺之風
咽元
右ゝ方より一寸ふ松
右ゝ座ゝ海のきくへ一寸程つきゝ候ゝ
花月ゝ丹菜ゝ九丹水ゝゝ　右の水を呑ゝゝ松子
こゝ和歌ゝ身し

あれよりまたじめの
辰歳をしるし御覧之以上
八月六日より八刻よりたゝ落千日寺のたゝ落
あしのい能
ゝゝ鳩　本来　のゝ能
花実の山
ゝゝゝ　広風坂　さゝさい仲
三途川
ら　らぞゝ旗　きぬゝけ柳
されの浦糸
まの付子着せんをつゝりし
六月　追ゝ

極楽水　上ノ段

小佛峠

[illegible]ころがし

[illegible]

六[illegible]の雲[illegible]

初[illegible]極楽[illegible]の[illegible]

[illegible]

第[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]　松[illegible]

[illegible]

八代目書置[illegible]

出語[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]一の[illegible]

[illegible]父[illegible]

[illegible]

父の[illegible]

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

辞世
浪花潟 [illegible]を [illegible] 秋の [illegible]

六月六日
市川
白猿

御贔屓様

口上 [illegible]上書御披露奉申上候
御花街中の諸君子様 [illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
大慶の [illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible] 御方様の [illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible] 根生役者の大立者市川八代目の
追福 [illegible] 花甚堂の大 [illegible] 仏法の [illegible][illegible][illegible][illegible] 蓮
華経 [illegible][illegible][illegible] 智 [illegible] 圓満 [illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible]の蓮 [illegible][illegible][illegible][illegible] 直 [illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible]代世話 [illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
大仕掛 [illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible] 月日
座元

八代目
八代目
八代目

自害ノ所ナルベシ
鬼両人ト
婦人大勢ニテ
八代目

辛卯五月上旬より浅草寺境内におゐて
奉納額ハ〆

八代目三升ハ川ぎやふくにとゞまつて唱奇也
廻りて世にかくれし華看のちゞめつさこれより
今にいたりし其のことゞきやう両段の事とて空つら
さればか誉といへるをとこといへるあふりぬことむちの
はなしありあまりみいさゝか芸まとうそえへる 水滴
そのあつけいはまとそまて
両段ハさとしかしてつるをいふ膝あへ以ぬしのもとむかし
いかあまたへしといふ物しといふ事はいふかしてぞ
あつまれり

市川團十郎
ざうだん
ふどき

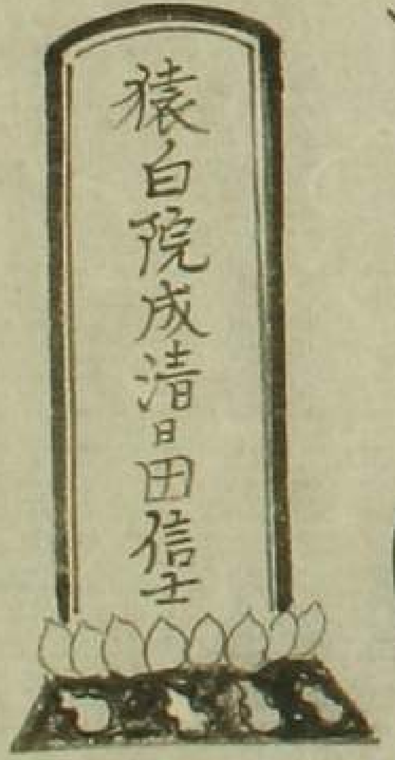
其名（そのな）サヘて市川団十郎乃おせへともしゝてたづねて
きゝけれバ此たび三五月なかばやひま入りきゝゆき
よけんにゝてきやくをも大の大ひんじよ与しやうな
しで大坂より江今年かへりにふるなぎや
あよかい程なくまつりを始おまりて大坂おあゝて今り
やてるをのりもちまゐるそのやきよげんどゝとん
ぼりよ中の芝居で自分やそれバ目ざし市川
だん十郎とよばれしとるかひさまそなかにてまけてな
をかけたき心ゆへ同丁三て志ちやの平次三のむすめ

にわたきとゐゝて是ハ月兄乃十二七ツ今がおさゐかゝ
りの色まゐてい是よあやおかきぬかをもゐぬけまぜと
これも市川だん十郎によおりちがをぬきやるといい
らんわの小あちま入りひゝよある日志ゝしてあ
あゝといゝて一ざまんをかつひるなんとかるふつとそれ
兄たる団十郎よう与ちらとくなきしんなれバはまち
がねをハ兄だゝましてひくきかくより団十郎どの
ゐやまいハ名を〳〵ひ弱ゝをいたそきよしあそびと
ひゐきをだしてふゝて世あせて是じゃちぎり今の

目かなやけんがらしゝのうるさむなしかみ哉わく
みへいつかきたかせそよりとたんてきすぐにおもめ
のおたきそよんでそろそろ日志ざしのゆんがなを
かせけんのうるさがるいそゐとゝろむむきもおーしでるさ
とあ川めんぶかるくやむもめのおたき日てにとが
やさくろろ〜かまして ふかきおこゑのあの市川ゑ
とばそるげんとまよゑのかんぶおそろとたんきをひ
けセツとき向き大とのをひあがりにあるせをか
かけんのどくとやしくきヤンレ エ〜 川

三升こそ
ねずみか為きこの夢や
秋の
あらし

大坂天王寺村
一心寺



東両国熊吉

中

「ゑつと　サア〳〵　いつのかは世の事なれなんの事だへわいなしごさ
なまおとよ孝次郎がきめあたりを見るに親子ちいす
めのしがへをつけてハ何事やら身をおまし申
やなまかにやるまも事くわんなるかいきたい
えてるなぞだなあるにさへとゝふへよいやひよだんた
ねそうなさるし　それに付ても此方のそのや殿とり
かくハ忠十郎の当りきうけん　あくまゝいつしそれ
とおあとの初めりきそにだんぞうしたくない
うし思あく目かけて切付ますると上へ上とそう

どういたしてつびにりかくハ十三万のさうをうけてぞ
ぬけまりましたら　だんぞうとおなけしとまうて
ぎんさいてを市川きういめへきをせる　それまで市川だん
十郎ハ中めしぞへて今日の十三将忠ねまでそだ
んぞう事をしやゑんねがへをいたさんそのとす
るにりかくハ大坂役者今日とせんでおそめのとゑ
しやゑんねがへをいてをぬめのに日びれたんりあだ
人とうろうなれバ十三将ざいきでおせんをよんでた
どいちめへまでたるとてくと相互へしゝさぞ都く

たると サテ いろのかいせのことかれ なん今のまんだの字ぎ
なおとてよ平次図かきとめあたりをみれるに我子なる
めのうじがへをみつけそれ何事家内をおさめし
やをなめへにやるまなとまくふぎんなるかやいきたい
たてろなこだなあらにえぞとらへよびやひよぎんれ
ねそらなんなー それに付ても出方のものや嵐色
かくハ兵十郎の事りきゝげんあくありいゝそれ
こゝろがあとドろおありまどにだんぞゝしたくをい
さしゝやあく国かけて切付ますそろ上へ出へとそう

役者正札附

一寸山枝宗良下三年
十月六日 浄莚信士
俗名 八代目 市川團十郎
寺ハ天王寺一心寺
行年三十二才

頭取 扨此度は此中侍々侍て若殿男当分使上方ニ下り候て
山林役者市川家代々の綱之八代目團十郎事 [illegible] 初年新春より
團十郎の名跡を継て三升申事を度々申候て家出一翻存心の
兼て一旦[illegible]市川家の家業をいへし江戸表御休座の積へ参居候
[illegible]の相続[illegible]大評判の所より[illegible]ニ大坂表
[illegible]行と相待し処大評判の評判にて合[illegible]延七月頃より[illegible]
定揃の根の[illegible]にて後ニ運の[illegible]実有る十二月[illegible]
[illegible]桃林舞の[illegible]手[illegible]ニも[illegible]七ツ時過

中村[illegible]九[illegible]門[illegible]坂東[illegible]八代目[illegible]海老[illegible]
丈[illegible]の[illegible]坂東[illegible]松本[illegible]
数[illegible]人気ハ[illegible]
[illegible]海老蔵丈[illegible]八代目[illegible]
大当り[illegible]海老蔵丈[illegible]八代目[illegible]丈[illegible]
中の[illegible]二[illegible]
見物[illegible]の[illegible]中[illegible]の[illegible]
[illegible]海老蔵[illegible]八代目[illegible]
[illegible]上[illegible]
海老蔵丈[illegible]市川家の[illegible]
[illegible]海老蔵丈[illegible]の[illegible]
[illegible]丈[illegible]只八代目[illegible]
[illegible]中[illegible]門[illegible]

海老蔵丈[illegible]門[illegible]大当[illegible]市川家[illegible]の
大当り海老蔵丈の大慶只八代目の[illegible]の吉[illegible]の
人気[illegible]役[illegible]江戸表の日[illegible]
[illegible]大慶[illegible]八月十六日初
日より[illegible]の[illegible]
初日の[illegible]八代目の[illegible]の[illegible]
[illegible]人気の[illegible]
[illegible]
[illegible]八代目[illegible]人気[illegible]
[illegible]八代目[illegible]年[illegible]月[illegible]
中古上方ハ八代目[illegible]江戸表ハ[illegible]年
[illegible]の[illegible]上方[illegible]
[illegible]中[illegible]

せりふの仕内よく奥若衆の花やかに八代目の[illegible]
思ひ出しけるは此方様ハ一番の出世者とたのもし

八代目ほめたる
お目出たく[illegible]と申される

一座見物人

一 [illegible]も世に[illegible]
[illegible] 菜 乃 [illegible]

上上吉 回 市川猿蔵

頭取 扨此度成田屋の御子息猿蔵[illegible]八年ぶりの[illegible]
見物 八代目[illegible]
[illegible]尾張表[illegible]大坂
[illegible]八代目の[illegible]中[illegible]八代目[illegible]
[illegible]大評判の[illegible]八代目[illegible]の[illegible]

[illegible]猿[illegible]
[illegible]の[illegible]成田屋[illegible]八代目[illegible]
[illegible]猿[illegible]八代目[illegible]
[illegible]
[illegible]八年振の[illegible]八代目[illegible]
[illegible]
[illegible]大評判[illegible]
[illegible]猿[illegible]
[illegible]上方[illegible]
[illegible]
[illegible]八[illegible]
[illegible]
[illegible]
頭取 [illegible]

右で[illegible]く 〔[illegible]〕 [illegible]の[illegible]も[illegible] 脇[illegible]
一[illegible]く[illegible] 新[illegible] 姫[illegible]
者[illegible]人[illegible]
[illegible]大[illegible]
[illegible] 〔八[illegible]〕 [illegible]
[illegible]
[illegible] 〔[illegible]〕 [illegible]
[illegible] 〔[illegible]〕 [illegible]
[illegible] 〔[illegible]〕 [illegible] 大
[illegible] 〔[illegible]〕 切[illegible]
の[illegible] 〔[illegible]〕 [illegible]

[illegible] 〔[illegible]〕 [illegible]
〔[illegible]〕 [illegible]
[illegible] 〔[illegible]〕 [illegible]
[illegible] 〔[illegible]〕 [illegible]
[illegible] 〔[illegible]〕 [illegible]
[illegible] 別[illegible]
[illegible]

弐役市[illegible]ハ此人く[illegible]藤九郎[illegible]中[illegible]本 [頭取] 次の
替り同屋[illegible]廿四歳[illegible]八百[illegible]役 [芸評] 似[illegible]加[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]文[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]狐の[illegible]
[illegible]八千[illegible]
文[illegible]の[illegible]狐の[illegible]八千[illegible]
大[illegible] [頭取] 芸[illegible]男之[illegible]役市川[illegible]の
狂言[illegible]方[illegible] [見物] [illegible]
廿[illegible]の[illegible]八千[illegible]上[illegible]

[頭取] 大[illegible]の[illegible]若[illegible]浦[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]八代[illegible]浦[illegible]文[illegible]
[illegible]大[illegible] [見物] [illegible]
[illegible]の[illegible]若
[illegible]の[illegible]安[illegible]大[illegible]
[illegible]
[illegible]女[illegible]時ハ[illegible]
[illegible]大[illegible]
大[illegible]一二[illegible]
[illegible]の[illegible]人の[illegible]大[illegible]
[illegible]の[illegible]大切
[illegible]の[illegible]人の[illegible]

此[illegible]信用[illegible]

[illegible]

上方[illegible]

[illegible]

[四九][illegible]一同[illegible]

[illegible]

大坂[illegible]

[illegible]

[illegible]

大[illegible]

[illegible][七十][illegible]ヤレコチノ[illegible]

[illegible]

[illegible]一同[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]南日廿八日[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]初の[illegible]

[illegible]西國廿三[illegible]一統[illegible]

[illegible]

右年寄ニ而御上ヶ被下置候所ニ付百三拾石ニ而役
儀ニ付御褒美被下置
宝暦十二年廿四日右之御聞
被下候
不知火より　湊　猪右衛門　五十三才
八代日　市川　半蔵　三十七才
初而出生仕候今日殺生役儀被仰付
仰付候所御目見仕被召上候
同年正月早々新町ニ而御勘定役ニ付候
菜園役人一同ニ殺生中役ニ及候而廿日の殺生
殺生一件ニ而渡候所
いたし候御役渡ニ而不申一同御誂候
小殺生ニ付今孫四郎渡候銀子
上方より出来候のニ付御目見申候二代目

親ニ而寄合附申父の恩ニ報候
孝行之段
深甚ニ存候ニ付
〔一ヶ月〕
二ヶ月
梅吉掛川ニ而病死
出生ニ而病死
御縁談相済
病死
梅の
書状の上申
八月十六日
笠原大助
右之
右同十七日米七ヶ月
右御米御褒美被下置候也

平安の人にして始て拙文松川□了□□□
八代目中初りて世に行ふ□□□□□□□
小川通に蕉□□三條□□□大風□□日地に紅
（貞）深く□□□□□□□名□□
中きはめたる白□□□□□□□□□□花
如くなる表より自ら□□□□雛□□□□
山家□□八代目の□□□□□□□萬□世
□□□□新□□□□□□自叙□□（大）□□
成は□□□□大造て□□□□□上□□□□
若ぐ家様□□□七月□□□□□三語□□□
来□□□□□□
竹□□□□□□□　秋のくれ
□□□

元亀の頃より二□□屋□□□中□□□□□の家
押□□□□□□□先□□□□　□代□□
棟□□久□□
中□□□□□□□□□□□□□□五□
利右者□□代目の□□□□長□□□□□□□中
茂右□□□□□□□□□□□□□□七代
同の兄□□□□□□□□□□□七代目の□□□
[illegible]
[illegible]
根□□□□□□□□□□□□□□□□□□
八代目も□□□□□□□□□八月□□□□□
二□□□□□□□□□□□□□□□□□□

[illegible]八代目之[illegible]

[illegible]手[illegible]海老蔵[illegible]四[illegible]貸[illegible]

有[illegible]八代目[illegible]文[illegible]重[illegible]指[illegible]

[illegible]七代[illegible]与[illegible]

[illegible]教[illegible]人[illegible]難防

[illegible]時[illegible]発[illegible]又[illegible]有

[illegible]八代目[illegible]死[illegible]又[illegible]刑[illegible]

[illegible]江戸[illegible]改[illegible]

[illegible]御力[illegible]

八朔[illegible]五月[illegible]調[illegible]所[illegible]

[illegible]魚の[illegible]

[illegible]手[illegible]人[illegible]

[illegible]二[illegible]文[illegible]御年[illegible]

[illegible]下[illegible]殺[illegible]生[illegible]

頭之肩腹之肩[illegible]是[illegible]

先年[illegible]時[illegible]一[illegible]廿四[illegible]

[illegible]中之五六[illegible]所[illegible]

[illegible]若川ト[illegible]

今[illegible]七ヨツト仕[illegible]

[illegible]石[illegible]

若年[illegible]柳生[illegible]世ゲ紀の[illegible]

[illegible]浪人[illegible]切[illegible]門[illegible]五月[illegible]

又右衛門ハ若年ヨリ手跡ヲ能クシ[illegible]
殊ニ真書[illegible]得手ト[illegible]先生ハ
日々ノ勤シ[illegible]
梅翁古筆白猿ト始来七ル猿彦作[illegible]
[illegible]権代間[illegible]一時初代[illegible]
まづ文[illegible]此浮世[illegible]十七日[illegible]
列[illegible]上手し
彦三郎[illegible]上夜行[illegible]太夫一座四谷
[illegible]官板出し
角太夫[illegible]是モ同文[illegible]奉リ[illegible]上演
一間[illegible]安[illegible]
[illegible]大[illegible]長[illegible]一座
橘[illegible]上[illegible]

其中[illegible]西[illegible]中[illegible]大夫ノ代[illegible]
米[illegible]
[illegible]其後[illegible]六十七[illegible]延宝
[illegible]六十[illegible]其人[illegible]
東[illegible]南[illegible]其女一[illegible]
文[illegible]一入
大[illegible]
[illegible]雑[illegible]風[illegible]貫[illegible]
国[illegible]一[illegible]
宮[illegible]雑[illegible]列[illegible]
[illegible]
二[illegible]
一[illegible]先師十[illegible]

風[illegible]

秋雨や[illegible]

二[illegible]

[illegible]

[illegible]

上總[illegible]

[illegible]

其[illegible]

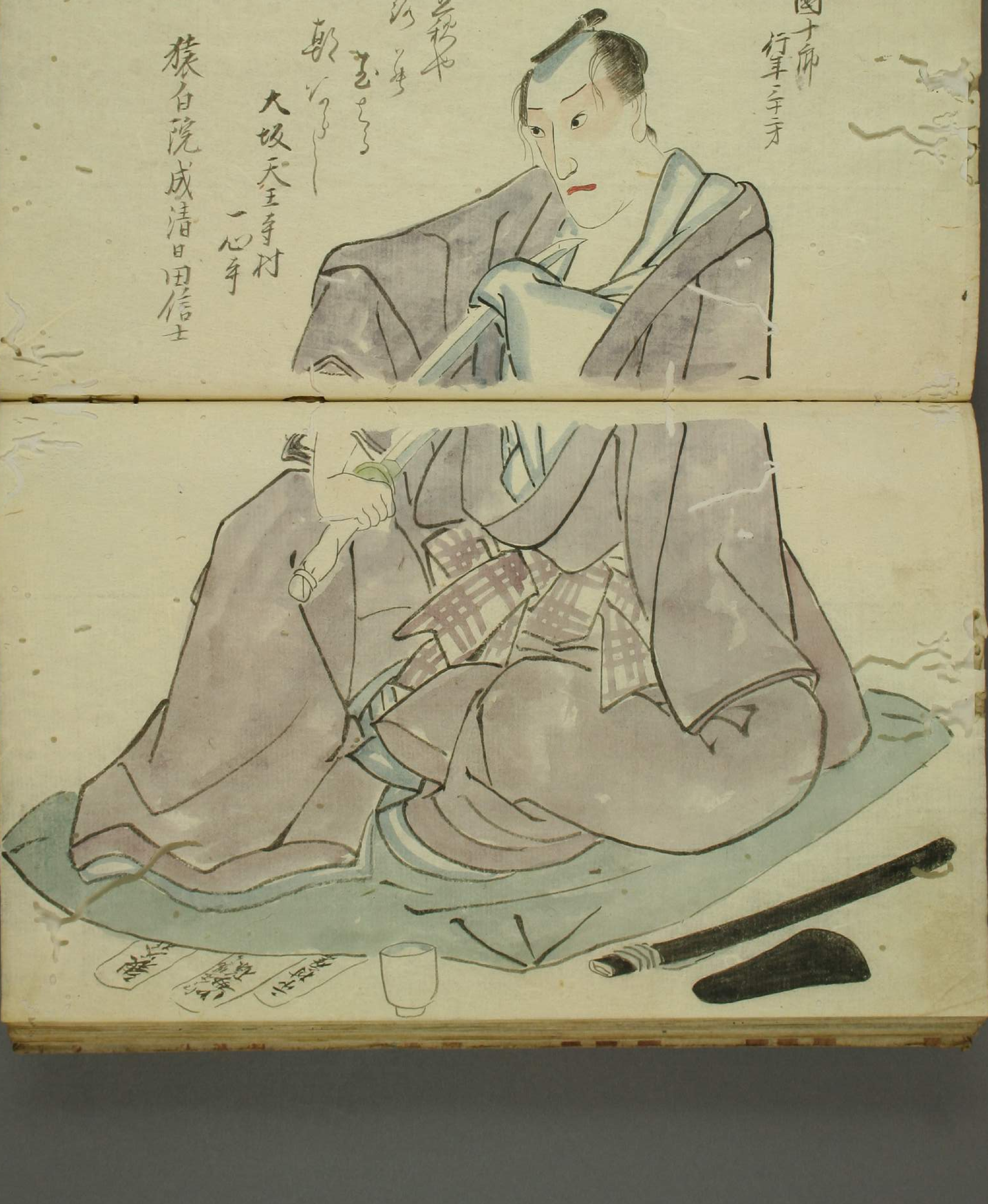
よくよみ給
あれ志ゆり
いつれもしらんを
おもはゞ こゝろよく
人のいふらん

八代目
團十郎
行年三十二才

志ら白萩や
和らさき
玉ちる
朝かなし

大坂天王寺村
一心寺

法名
猿白院成清日田信士



嘉永七甲寅年八月六日浪花ニ而没ス
猿白院成清日田信士
辞世
志らゝ波の墓所
御乃かひぞなき
かへら奴旅乃
門出せる身を
東都 □二佐
根とせる浮なかさらり流れけり
市川團十郎
行年三十二才

八代目團十郎事
大坂ニて
市川白猿
行年三十二才

辞世
うしろ富士
浪花ニ見るや
猿 [illegible]

法名
猿白院成清日田信士
嘉永七寅年八月六日
大坂一心寺葬

きく人も
みる人も
[illegible]
[illegible]
猿の[illegible]
梅屋

法の名も
ゆかしき[illegible]
秋[illegible]

大坂
加賀佐

一 かきそめの事

一筆啓上[illegible]

[illegible]

入[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月十六日

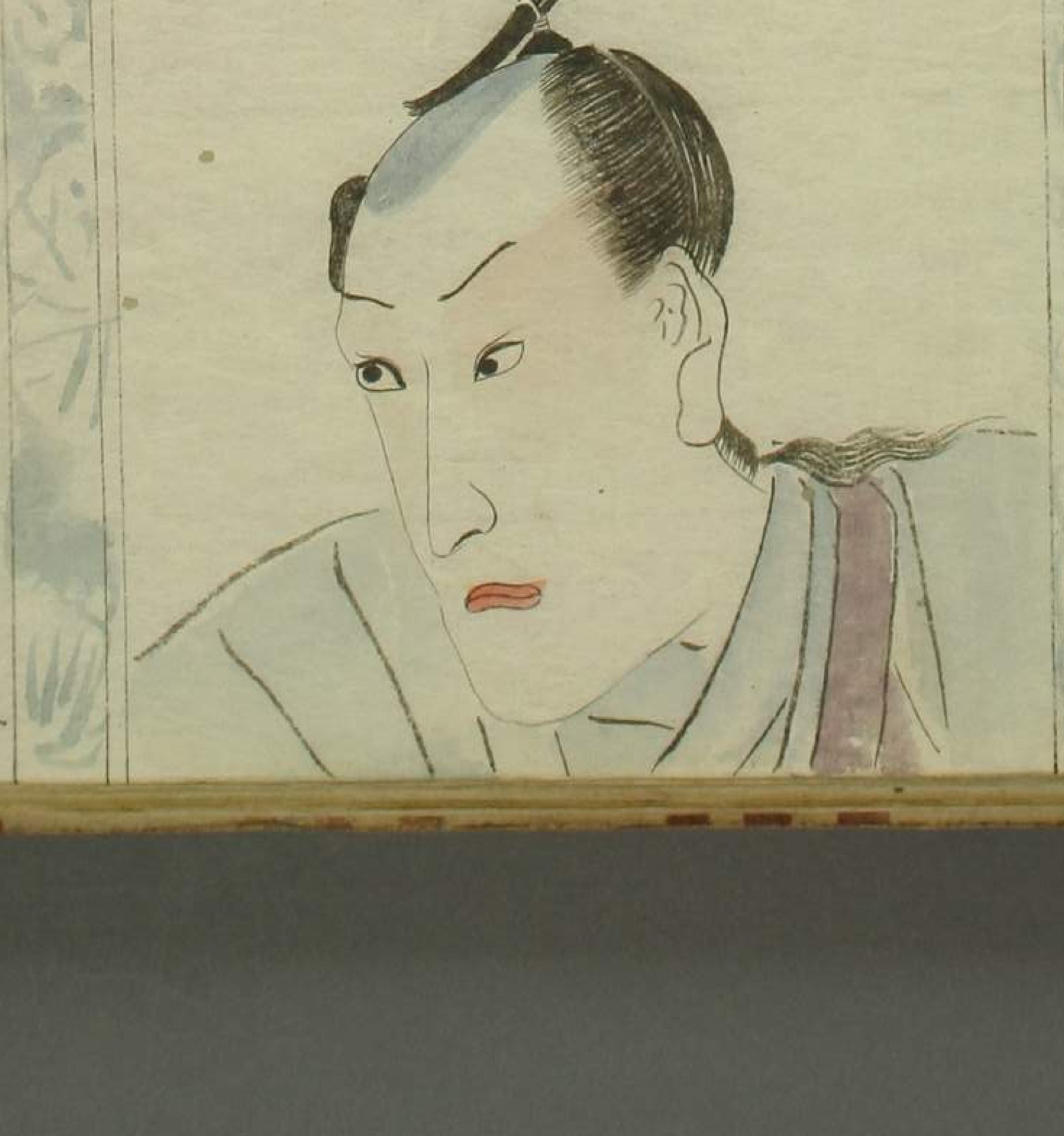
[illegible] 様

嘉永七甲寅年八月六日

猿白院成清日田信士　行年三十二才

辞世

うしろ弟二筆ぽとまちて旅の空



女猫まて〱袖ふれあひさとふく牡丹

わしや恋さかのはこの林

梅屋

六角堂額面奉納　八代目近藤

〻〻も親類さんのちょうこうれ　三升女士
御前ほまもてのいのちを　力松
家前の庵の初もおもはれて　若女
桂の小川と流れあそ　爪女
三月さしく名残のうく聴る　浪女
先行是ハ出来し草履　石垣
御僧はお識さかし名も新なれ　安女
蘆をうつる聲もおとそてとふ　銀女
花よりみまあきしもるる小筆書　琴女
雲と晩ぞる野の川ぞう　萩女
たゝまでる歩しうゆふる雪の傘　米女
湯屋のてあつの名かは道もる　照女

弥生より月の流のとこゝろ子ある　若松

夜更し更行新所の涼　加賀女

雨風に蛍伴ひく橋の中　礼女

吉たしまさ了井出の山吹　柳女

世よりは花の盛も根に帰る　草女

小田の蛙の作り添へ聲　てる女

ごろ〳〵の稲妻まつる雛の宴　千代女

行く盃しまさね蝶の舞　貴女

志ばらく藤一聲光ぬ　てふ女

まさ桃にかゝる柳　小菊

ろく〳〵の花切捨るもこの浦　冬女

さらし尚ある道の子の内　竹女

鈴の音の今もまんの年の村　濱女

ぬしのなしも恋ぬさしにし　志ゞ女

涼しさや涼風清気也ぶら　圓女

雨気も流れし六月の光　青柳

著と京の春ちも川祇園宮　世女

さゝせんつ花もあらこそものう　京女

日御影膽ひつしら年利盛　岸女

業平もはしに出年あ　光女

据えしの獅子に植えつ水　滝女

萩月夜に咲萩の花　梅女

花一本つ植えし一心寺　玉女

涼しさにこされ涼しさ川　宮　鉄女

表裏にて廿之

〽荒事ハ笑ハしの 梅も目ハ花ぬ 八代目の名ハ
勢ひへしかるまじきあれこそ 花かれしの毒なるの
あらハ歩みんしを ...[illegible] 鑑ぬ名ハ屋ノ

嘉永七寅八月六日八代目市川団十郎 [illegible] 花川戸 [illegible] 芝居
異父 [illegible] 大坂親海老蔵ハ父 金子(?) 抱 [illegible] 幼年 [illegible] 市川
中村 [illegible] 来 [illegible] 海老蔵 我等 承 [illegible] 大坂
当道 [illegible] 此 [illegible] 一芝居 [illegible] 元 八代目 親 [illegible] 月
廿日大坂 [illegible] 吉 [illegible] 海老蔵 初 [illegible] 一流 [illegible] 八代目
両人 [illegible] 海老蔵 [illegible] 我等 [illegible] 近 [illegible] 及 [illegible] 数 [illegible]
是 [illegible] 八代目 [illegible] 我 [illegible] 今年 [illegible]
[illegible] 江戸 [illegible] 中 [illegible] 当道 [illegible] 出 [illegible]
[illegible] 親 [illegible] 七歳 [illegible] 海老蔵 [illegible]
[illegible] 右 [illegible]
[illegible] 海 [illegible] 建 [illegible]
[illegible] 市川 [illegible] 海老蔵 [illegible]
何年一番 [illegible] 自 [illegible] 二芝 [illegible] 江戸 [illegible]

嘉永七寅年八月六日
大坂天王寺村
一心寺

法名
猿白院成清日田信士
行歳三十二才

辞世

赤き葉や霧の
玉ちる錦かし
うしおかや
浪花に趣を
旅の空

八代目
三升

[illegible]

八代日向守のうちに
町中郡上和[illegible]御機嫌[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]早一[illegible]
[illegible]
[illegible]の風に[illegible]
[illegible]
川の流[illegible]のみとも[illegible]
[illegible]
[illegible]老父[illegible]
[illegible]

辞世
うしろ髪
浪花よりのこす旅の空

猿白院成清日甲信士
行年三十二才

八月六日

竹上妙顔

八代目 市川白猿

東京開化繁昌誌　萩原乙彦著述 明治七年甲戌二月の初編 新富街

戯場の事とて来 嘉永六年の其夏六月 亜墨利加の
使船内海へ始めて渡来し 将白猿は彼地より
江戸の宮殿へ通信の書簡中より
此の先へ舞人の旅替して が居ていかに白穀
とらの戯名を送りて流派の推して初之しも子子へ八代目
團十郎 古き藝評家が存じて孝貢 世の名
惜まれ其後は自書して 江戸の 年貢

源氏が七部草子の名に暗き絵 人品あれは 絵
は見るべからん 此孝行の旌賞有し 難波の大儒篠崎
小竹其美行を感歎の余り五十言の古詩一篇を賦して
那より送り贈りたことを 一尺八二寸
横一尺六寸の絹本に七行廿言 装潢して
家蔵せし 士訓点して左に挙く

團十郎

四方有聖訓 君子喜戯場 能優 若團十郎
聞其孝第美 士人誰敢忘 一家世住江戸 爺曰海老蔵
新年蒙厳 放逐出都鄙 亦以死 猿若坊
哀慕雖加矣 法不許相将 歌舞 夜沾裳
雇銭雖不多 分致資衆装 書信数問安
事嬢極甘脆 則 湯 及姉妹 愛育共同床

輯睦致和氣一家無窮之志更有爺弟子七十輾張
取養於天壽貴用不論人或勧婚娶輙辞曰不遑
心恐違孃意之奉獻為所勤將願無憂往[illegible]早起
從爺未文致至今四星霜自所茶肉毎朝祈佛堂
佛堂其世祝成田不動王積誠無間星今閒自揄揚
之也維夏五月聴審且詳旌賞賜錢葛孝名達四方
嗚呼先王道所重是人綱常者奉其教從諸明謹章
厚類集彼弟類舌謁聞張毋名額須副扮為若子教
十郎内若子而外則優倡兩者孰可慨慨嘆發中腸

浪華小竹散人篠崎弼 [illegible] [illegible] 左中

八代目の孝子は善く世人の知る所なり七十有数の一次を
読み孝篤識譽慶最の[illegible]一家交々次七廿年の

星霜を経ても其の婦初ハ[illegible]議首の[illegible]
小許[illegible]言ひ入宴[illegible]
二代目若[illegible]
家[illegible]將天[illegible]思[illegible]一瓶[illegible]
彼[illegible]孝[illegible]當[illegible]孝の
[illegible]老父[illegible]
先[illegible]是[illegible]
前孝ハ虚行[illegible]庭[illegible]
是発[illegible]讃詩[illegible]是[illegible]
愚[illegible]秋[illegible]日[illegible]
志ハ天[illegible]忠生[illegible]
人[illegible]植温[illegible]
世子愚[illegible]業[illegible]

有ともに天地と雖も若と知るべからず[illegible]世に[illegible]
人の絶命と知らすとも傍に譏嫌者ハ勤し
何則貴賤賢愚老若男女一ツに指くら定を知る
者の雖も天神と称す、ハ吉事と知り大師と称す、ハ
弘法大師と称す、ハ尊と知りわれ海と称されハ
一向宗の本願寺と知り権現様と称す[illegible]東照宮ハ
御本と知り自ら称す、ハ世尊真神と知り[illegible]代とハ
如来神と知り[illegible]有屋[illegible]法然上人
[illegible]雖も[illegible]雖[illegible]斯の如きの一世の[illegible]釜
自身ハ何に惜むるも[illegible]身の罪科も贖ふ
只に惟ふ善種ハ善の業の[illegible]然るの報[illegible]
世に[illegible]
文殊菩薩 黒[illegible]満[illegible] [illegible]

行年二拾三歳

市川猿蔵

[illegible]

御贔屓様方

並御贔屓様にも[illegible]

ことの外[illegible]

御引立ニ預り[illegible]

私義存生中[illegible]

江戸ツ子の名にて当御ひいきに

御恩の絶ぬやうにそうらへ人の

まで[illegible]の[illegible]

こゝ乃所に別[illegible]の[illegible]も[illegible]
みどり児の[illegible]きれ[illegible]の人[illegible]
[illegible]起さるの[illegible]素[illegible]新[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]蔵[illegible]
中[illegible]
月[illegible]一郎の[illegible]

寛政二年戌
九月廿八日往生　實與院猿道延安信士

辞世

[illegible]

梅に

[illegible]猿の[illegible]　寿海老人

五雲　[illegible]

役者一雪月花

上上吉　[illegible]　市川猿蔵　両御座

頭取　[illegible]

[illegible]

[illegible]

口　[illegible]

[illegible]

切[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

有吉大坂の巻

安政二年卯九月十九日

寶誉儀延孝安信士　寺ハ天王寺 一心寺

俗名 市川猿蔵　行年廿一才

○[illegible]一心寺

[口上] 扨此所が[illegible]の場[illegible]猿[illegible]一世一代[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]一場[illegible]九月十九日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

離年中へ團十郎丈をさしおき助十郎丈大谷廣次丈市川段四郎丈并七
丈なとかの若女形〇座の役者衆中へ[illegible]宮崎
山ノ仕合なる所でござりますぞ御前ござる山田あたりと相[illegible]中上
作る [娘道] コフナヤ様さんと一所に[illegible]路考さん[illegible]
夜中[illegible]小まよりの若女形とたのもしき[illegible] [評判] 丈ハ[illegible]
及び申さぬ〇宗十郎丈[illegible]の仕[illegible]都中上手[illegible]二の替り
中の座中[illegible]五十三駅で若[illegible] [まなき] 出[illegible]人方[illegible]
らし 海老蔵丈相[illegible]とつ[illegible]の[illegible]
まし [頭取] 三桝丈門人[illegible]若女形[illegible]段丈の[illegible]
見とう[illegible]門[illegible]来[illegible]一統[illegible]
ましょ 如何にも[illegible]中[illegible]利合[illegible]初年[illegible]上方[illegible]
仕上上方風[illegible]春[illegible]出[illegible]上手[illegible]
ござります 先一日の狂言で此場大評判でござります[illegible]

切[illegible]山下[illegible]初年[illegible] [三右衛門] [illegible]大[illegible]の
六[illegible] [評判] 三[illegible]門[illegible]十[illegible]大[illegible]
さし[illegible]出[illegible]
板[illegible]丈[illegible]親[illegible]
ら[illegible] [さしき] 若[illegible]役[illegible]丈[illegible]
[illegible]け[illegible]出[illegible] [見切] [illegible]
[illegible]出[illegible]狂言[illegible]
[illegible] [頭取] [illegible]親父[illegible]若[illegible]
[illegible]八[illegible]出[illegible]
[illegible]大[illegible]
[illegible]役[illegible] [頭取] [illegible]方[illegible]
[illegible]親父[illegible]大切[illegible]初[illegible]
[illegible] [頭取] 切

狂言好嫌ひなし 濡[illegible] 長吉との出合の所
さらりとして[illegible] 先達[illegible] 藤蔵の仕納[illegible]
[illegible] ヒイキ [illegible]
[illegible]
[illegible] 𨦇 [illegible] 一 [illegible] の [illegible]
[illegible]